

石巻復興 NEWS

石巻専修大学 経営学部 丸岡ゼミ 平成 24 年 2 月 29 日発行 第 8 号

東日本大震災からの復興に向けて ～広島からのボランティア活動～

あの震災のことは、私が退職 1 年目の 2011 年 3 月 11 日(金)に福山市(広島県)での仕事を終え、帰宅途中に車のラジオで聞きました。大きな地震だということでしたが、あまり危機意識もなく 3 時過ぎに帰宅しました。

私は 38 年間の教員生活を終え、現在、退職 2 年目、地方の大学関係の仕事をしながら地元のボランティア団体のお世話などをしています。いつもならばこの時間は、近くにある中学校のクラブ活動の指導に行くところですが、当日は卒業式で練習がありませんでした。

なんとなくテレビのスイッチを入れると、大津波が押し寄せ陸地をどんどん遡上していました。人が、車が逃げ惑っていました。「もっと逃げなければダメじゃ!」と何度も叫びました。その後も東日本一帯の津波や地震、火災の状況が画面に映し出され、私は驚愕しました。

この震災は百年あるいは千年ぶりと言われ、とてつもなく多くの人命、財産等々が失われ、語りつくせない程の多くの人々が悲しみ、涙を流しました。根拠はありませんが、私は国家の財産の 1 割以上を失ったのではないかと思いました。私個人としても何かをしなければならぬと言う焦燥感に駆られました。

職場や町内での義援金活動の最中、私が在職中に駅伝等で指導した生徒で、一昨年(2010)の 5 月に私の退職祝賀会に石巻市から駆け付けてくれた M 君が石巻市と女川町で被災し、家屋が全て流されたことを知りました。彼と連絡を取り、ボランティア活動に参加したいことを伝え、8 月下旬に 1 週間程度石巻市を訪問することにしました。

8/27(土)に広島を車で出発して、30(火)に石巻市に到着、31(水)から 9/6(火)まで、石巻駅近くのホテルに宿泊して 9/10(土)に広島へ帰着するまで、ボランティア活動を実施しました。

最初の 2 日間は、石巻専修大学のボランティアセンターに依頼のあった民家の床板を剥ぎ、床下のヘドロを取り出す作業を行いました。



その後は女川町の社会福祉協議会(ボランティアセンター)の皆さんのお世話になり、写真の洗浄や神社の御神体の引っ越しなどを行いました。また、時間を



つけて私が在住する熊野町(筆の町)と交流のある雄勝町(硯の町)などへも出掛け、いろんな人たちと交流話を聞きました。

最初にボランティア活動を実施した石巻市内の民家の柱や壁には、2m位浸水した跡が残っていました。体験話も多く聞きましたが一番記憶に残っているのは、「私たちは命を貰った。今、生きている者は皆ドラマがありますよ」とさびしうに語られたある男性の言葉とその表情でした。

ホテルへの帰途、道を間違えたついでに日和山へ登りました。眼下の北方には旧北上川の兩岸の倉庫や水産加工工場や倉庫などが破壊し尽くされていました。東方向を望むと太平洋の大海原が拡がり、日和大橋がぼっかりと何事もなかったかのように残っており、復興のためであろうトラックらしい車両が忙しく行き通っていました。しかし、陸地側へ目をやると一部の建物を残して全てが荒野に近い状態になっており、幾つかの瓦礫の山ができていました。痛ましく、悲惨としか言いようのない光景に唖然としました。

私が長い教員生活の中で生徒に言い続けたことは、「一生懸命頑張ろうね!頑張ったら良いことがあるよ!成績も良くなるよ!学習でもスポーツでも同じだよ!」でした。しかし、この震災の状況を見た時、神も仏も無いような気がしました。地震、津波など自然災害の前に、我々人間は成す術もありませんでした。でも、私たちは知恵を絞り協力し、助け合い、一丸になって立ち上がっていきます。これまでの歴史の中で繰り返されて来たとおり、我々がまた困難を乗り越え、新たな歴史を創って行くのだ!

私はこの度のボランティア活動を通じて、地域の人々の復興に向けての粘り強さやその強い意志に感動しました。教育に携わって来た者の観点からすると、わが日本という国は世界に誇れる素晴らしい国、民族だということを心から思い痛感しました。これはわが国の歴史や考え方、民族の特性、特にそれらに関わる教育によるところが大きいと思いました。

まだまだ時間はかかるかもしれませんが、日本は、東北は必ずや復興します。そのためには我々国民は大局的な視野に立って考え行動することが必要でしょう。最近、政治を含めお粗末な話やニュースが多くなってきているような気がします。もう一度「絆」という言葉の意味を再確認し、手綱を引き締め再スタートしたいものです。

(広島県安芸郡熊野町 諏訪本光)

阪神・淡路大震災からの経営再建 ～アテナホテルズ・立石裕明さん～

「私自身、2度、自殺を考えました。」

1995年の阪神・淡路大震災でホテルが大きな被害を受けた現在の株式会社アテナソリューション（淡路市）の経営者、立石裕明さんの言葉は、重いものでした。

「駅のホームを歩くときは、真ん中を歩く」

これは、経営の苦しみから逃れようと思いつきで線路に飛び込まないための、自分のルールだったそうです。立石さんの周りでは、実際に2名の経営者が自殺したそうです。震災は、経営者を深く追い込んでしまうのです。

今年1月24日に石巻グランドホテルで開催された「石巻地域観光復興シンポジウム」での講演「被災経営者が語る～私にとっての阪神淡路大震災とは～」で講師として石巻にいらした経営者の立石さんのお話に、会場は静まりかえりました。

震災の日、立石さんは、テーブルの上の湯飲みが天井まで飛び上がり、家具が部屋の端から端へ飛び回る、この世のものとは思えない光景を目にしました。ただ、震災は早朝、ホテルの厨房に火が入る直前で、出火しなかったのが不幸中の幸いでした。

震災で傷ついたホテルの再建は、並々ならぬ苦労を伴うものだったそうです。

再建資金の借り入れには事業計画が必要です。しかし、震災後ホテルのさまざまな配管が次々におかしくなり、調べるたびに修理のため数百万円もの追加資金が必要になり、何度も計画を見直しました。

今は、コンサルタントとして、経営相談にも乗ります。「資金繰りが悪い？昔の私のホテルほど資金繰りの悪い会社は、見たことがありません。何とかあります。」

体験に裏付けられた言葉には、説得力があります。

この苦境を克服するため、アテナはスポーツ合宿に力を入れました。これは業界では単価が安く儲からないビジネスとされていましたが、発想を変えたのです。

とすれば、選手の気持ちをつかむことが大切です。選手たちが食べ残した食事を調べ、スポーツの種類別に食事の好みをつかもうとしたそうです。ホテル外壁にはロッククライミング用の壁がつけられ、コインランドリーやジム、必勝祈願の小さな神社まで設置されました。

努力は実を結び、今ではこのホテルはスポーツホテルという位置づけを得ました。また、立石さんは、2002



年のFIFAワールドカップで、イングランドのサッカーチームの淡路への誘致を成し遂げました。ホテル経営の再建とともに、淡路島のスポーツ拠点化に確かな足跡を残したのです。

この講演は、石巻の経営者に力を与えてくれました。

（丸岡泰）

ふるまいたかったサバだしラーメン ～「石巻食と観光フォーラム」外伝～

観光振興キャラバン「石巻食と観光フォーラム」については、本誌第6号でお伝えしました。

去る11月15日(火)、宮城県から学生や市民40名余りが東京・神田の専修大学に向かい石巻の食と観光をPRしました。

このとき同行した経営学部の石原ゼミの学生の見たこのイベントの様態をご紹介します。

石原ゼミは学外でのビジネス体験が活発です。ゼミで調理し学園祭などの場でふるまわれる「サバだしラーメン」は、行列ができる人気ぶりです。

石巻の地元水産加工品の域外販売にも熱心で、学生は各地で販売実演をしています。

東京の専修大学では日ごろ相手にしている買い物客よりも財布の紐が固い大学生が相手に営業の勝手が違ったようですが、イベント盛り上げに努めてくれました。

（編集部）

今回、我々のゼミは「サバだしラーメン」のおふるまいをさせていただくつもりでした。が、この企画は、ラーメンを作る為に必要な場所の確保が困難だった事もあり、実現しませんでした。

しかし、何かしら活動を行いたいと思い、当日は木の屋石巻水産様の缶詰セットと山徳平塚水産様のサバの味噌煮・生姜煮の受注販売を行わせていただく事となりました。

ゼミの活動で地方に行くことはしばしばですが、今回のように他の大学の敷地内で学生を相手に販売を行う事が初めてであったこと、そして商品に対して客層が若すぎたという点から、販売数は奮いませんでした。

しかし、早い段階でその事に気付いた我々は、販売からイベント自体を盛り上げる為の宣伝活動にシフトしていきました。

事務の方たちに学生のいそうな場所を聞き出し、許可をいただいて声を張って宣伝しました。学食などではテーブルを一個一個まわり、お声掛けをさせていただきました。

当日お騒がせしまった皆さま、大変申し訳ございませんでした。また、来場して下さった皆様、本当にありがとうございます。

おかげで、どんな相手にも臆せずに声をかけ、短い時間で要点を纏め宣伝する能力を育むことができました。また、様々な普段接点のない他のゼミの方と一緒に行動できたことは、我々石原ゼミにとっても大きな刺激となりました。

次回、またこのような催しが行われることがあれば是非また我々もご一緒させて頂きたいと思います。その時こそ、我々自慢の「サバだしラーメン」をおふるまいしたいと思います。

（早坂駿輝）

◆映画特別上映会のお知らせ（岡田劇場がんばれ会）

○日時：3月10日(土)午前10時30分～（10時開場）

*本誌へのご意見・ご感想をお待ちしております。E-mail senshu-maruoka@inter7.jp

◎作品：「friends フレンズ もののけ島のナキ」

□場所：石巻専修大学4101教室（入場無料！）